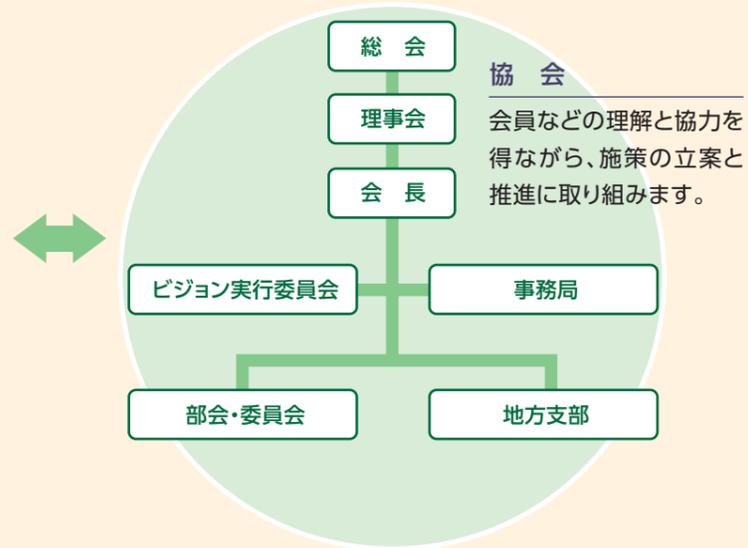


推進体制と実施主体

会員及び構成する技術者

環境アセスメントに係る企業活動を継続・拡大していくために、協会を通じた連携のもと、中長期ビジョンに基づく行動計画に積極的に参加します。



JEAS 中長期ビジョン (2018~2027)

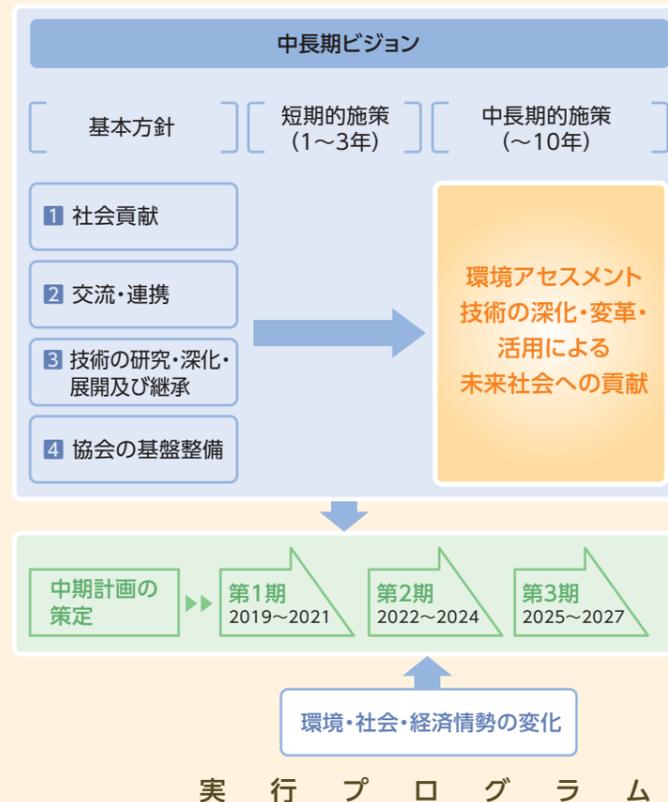
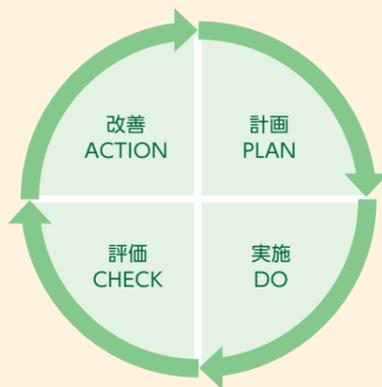
—未来を切り拓く環境アセスメント—

概要

施策の実施状況のチェック

中長期ビジョンは10年後を見据えたものであり、その理念の実現にあたっては、社会情勢の変化を踏まえ、適切な施策を実施していく必要があります。

このため、新中長期ビジョンの実行計画として、中期計画を位置付け、3年ごとに同計画を策定し、継続的に「計画→実施→評価→改善」を行い、柔軟かつ効果的な施策の実施を行います。



2018年 5月

はじめに

JEAS では2005年に協会活動の基本方針を定めた第二創成期ビジョンを策定し、これに基づく活動を行ってきました。その後の10年間は、公益法人制度改革や東日本大震災を契機とする国民意識の変化・制度改革などの協会を取り巻く社会環境の変化はめまぐるしく、将来の見通しも不透明な状況にあります。協会創立40年を迎え、50年までの当協会の進むべき方向性を定める必要があるとの認識のもと、今後10年間の活動の基本方針を示す中長期ビジョン(2018~2027)を策定いたしました。

中長期ビジョンのイメージ



環境アセスメントの変遷・現状と課題

- 風力発電など環境アセスメントへのニーズの変化
- 環境影響評価法改正など制度変化への対応
- 自主・簡易アセスなどの展開
- コミュニケーション、マネジメント技術の重要性増大
- 社会・経済的な視点でのアセス技術の確立
- 環境アセスメント士の一層の増加
- 労働時間の管理、若手技術者の確保
- 環境アセスメント以外の環境関連業務の増加

新たな方向性

- ◆ 国内社会・経済状況の変化に伴う新たな分野でのニーズへの対応
- ◆ 温室効果ガス削減、SDGsの達成、環境問題と社会・経済課題の総合的解決、グローバルな課題への対応
- ◆ 環境アセスメントに関連する技術革新とその展開

基本方針1 ● 社会貢献

具体的な施策	施策の方向性とその展開
1 持続可能な社会の構築に向けたアセスメント制度の提案	政策提言・研究・提案 ● 気候変動、地域再生、自然資本など持続可能な社会構築に向けた政策提言・研究提案を行う。
2 環境配慮の啓発・普及	認証制度の検討 ● 自主アセスメントの照査・審査の仕組みづくりなどを検討し、普及を図る。
	環境アセスメントの啓発・普及 ● 環境アセスメント士や退職技術者の教育機関等への講師・アドバイザー派遣などの活動を進める。 ● 環境アセスメント技術データベース構築などの情報提供サービスの整備を進める。 ● アセス関連情報提供サービス、環境教育プログラム作成・指導などの環境教育への対応を図る。
3 環境アセスメントの信頼性確保	表彰制度の制定 ● 環境アセスメント技術の開発や環境アセスメントの普及などの大きな功績に対する表彰制度を制定する。
	環境アセスメント士の活躍促進 ● 環境アセスメントの信頼性を高めるため、環境アセスメント士の地位向上を図る。
	倫理規定等の制定・普及 ● 環境アセスメント技術者の倫理規定、行動指針を社会に表明することにより信頼性の確保、社会的地位の向上を図る。

基本方針2 ● 交流・連携

具体的な施策	施策の方向性とその展開
1 協会外部との交流・連携の推進	官公庁、各種学会・団体・NPOとの交流推進 ● 各種学会との共催シンポジウム、共同研究を推進し、積極的な学会報告を行う。 ● 官公庁や公益法人、各種環境団体、海外団体、NPO、異業種などとの情報交換・意見交換会を開催する。
	協会のPR推進 ● JEAS ニュースによる広報活動などマスメディアの利用、種々の事業への協賛により協会の認知度を高める。
	国際化への対応検討 ● 海外アセスに係る専門家を招いたセミナー等の開催を進める。また、アジア地域との交流・連携を推進する。
2 協会内部における交流・連携の推進	コミュニケーションの活性化 ● セミナーや技術交流会など、継続的に実施内容を見直し、協会内部のコミュニケーションを活性化する。
	本部・地方会員間の交流と連携の推進 ● 地方会員の本部における運営への参加機会を増やすなど、協会全体での会員交流を深める。 ● 支部でのセミナーや技術交流会の開催を進め、地方会員サービスを向上し、協会内部の交流を深める。

基本方針3 ● 技術の研究・深化・展開及び継承

具体的な施策	施策の方向性とその展開
1 アセスメント技術の継承・人材育成	技術研修の継続実施 ● セミナーや教育研修などのニーズにあった効果的な開催のため、継続的に実施内容を見直す。 ● 環境コミュニケーター養成のためのセミナーや研修等の実施を進める。
	環境アセスメント士資格制度の活用による技術の継承 ● 環境アセスメント士のための継続教育を積極的にサポートする。
2 アセスメント技術の研究・深化	環境アセスメントへの新技術の活用 ● 環境アセスメント分野におけるデータベースの構築やビッグデータの利活用方法、AI・VR活用などの革新技術の調査・研究を進める。 ● 環境アセスメント分野におけるドローン、ロボット、IoT技術の活用に向けた調査・研究を進める。
3 アセスメント技術の活用・展開	環境アセスメント技術の新領域への活用・展開 ● 社会ニーズにマッチした環境アセスメント技術の応用を先導するための調査・研究を進める。

基本方針4 ● 協会の基盤整備

具体的な施策	施策の方向性とその展開
1 協会の強い体制づくり	財政基盤の安定的確保 ● 異業種の企業等へのPR、学生へのPRなどを進める。 ● 社会ニーズをとらえた効果的な調査・研究の実施、各種学会などとの連携により、受託業務の拡大に取り組む。 ● 環境アセスメント士制度の適切な運営方法の検討を進める。
	組織体制の強化 ● ビジョンの具体的な施策を推進し、協会活動に反映させる組織体制を構築する。
2 協会の魅力の増大	会員メリットの創出 ● 業界における存在価値の向上についての取組みを強化する。 ● 業界イメージの向上や学生への業界PRを進める。 ● 従来の積算資料検討を更に推進し、適正価格の維持に向けた歩掛の検討を行う。
	会員制度の見直し ● 協会活動の活性化に向けて、会員制度や支部活動の在り方などについて検討する。
3 業界の働き方改革の活性化	ワークライフバランスや介護・育児等の問題への対応検討 ● 会員への情報提供を積極的に行うとともに、環境アセスメント業界としての提言を検討する。